

年 組 名前：

勝頼デザイン商品販売

甲州市大和町初鹿野の道の駅甲斐大和は開業30周年を記念し、武田勝頼が描かれたパッケージの食品やグッズを販売している。同市大和町地区は勝頼が織田信長の侵攻を受け自害した「武田家終焉の地」と呼ばれていることを踏まえ、ゆかりをPRしようと企画した。

道の駅の河野恵支配人は「信玄公に比べると勝頼公のグッズは少なかった。今後も取り扱いを増やしていく」と話す。利用者の記憶に残る機会を提供しようと、施設内に勝頼と、妻の北条夫人の顔出しパネルを設置した。

道の駅甲斐大和は旧大和村武者姿のパッケージを、同駅名物の「うどじろまんじゅう」道の駅の指定管理者・エープレイス（同市）によると、軍配を掲げるなどした勝頼の武者姿のパッケージを、同駅

（山本就己）

甲州・道の駅甲斐大和 開業30年

武田勝頼がデザインされた記念商品
＝甲州市大和町初鹿野

(2026年1月9日付 山梨日日新聞17面)

問1

道の駅甲斐大和は、何の記念として、武田勝頼が描かれた商品を販売しているのですか。

問2

甲州市大和町地区は、武田勝頼にとって、どのような場所になりますか。

問3

販売している木札のストラップには、なにが書かれていますか。

問4

道の駅は、利用者の記憶に残る機会を提供するために、なにを設置しましたか。